

項目	認知症ケアパスについてのご意見
<p>【全体の構成について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記載項目 ・情報の分量 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●表紙 ⇒「見てもらう人」を考えた時この表題で「見よう！」と思うだろうか？ 「認知症ケアパス」という言葉はその筋の人しか分からない言葉。写真を大きく入れるよりケアパスとは？を分かりやすく表紙の段階で入れた方がいいのではないかな？ ●2ページの項目 ⇒「サービスのご紹介」とあるが、家族の会やオレンジドアは「サービス」ではない！ ●3ページの項目 ⇒「地域包括支援センター」の名称欄に、五橋とか上杉とある(他の冊子でもそうだが・・・)。多くの介護家族がこの表示で「何処？」と言っているのを知っていますか？ せめて〇〇丁目までの住所を入れて欲しい。「分かる・見える」はここでも必要だと思う。 ●4ページの項目 ⇒「何科」受診～ の中で各科の紹介をしているが、これでは適切な診断に結びつかない。それぞれの症状に強い科まで示すことは出来ないまでも、「神経科」で認知症を看ない医院があるのも事実。且つ、これだと「かかりつけ医」ではない、と言っているに等しい。 〃【メモの例】⇒認知症かもしれない？と受診する際の「メモ」として適切ではない。 〃 知るところらむ ⇒みやぎのお医者さんガイドで検索とあるが、往診医で認知症診断を出せる先生が何人いるのですか？ このような案内はするべきではないと思う。 ●5ページの項目 ⇒「声」の欄に認知症初期対応サポートチームの支援を書かれた家族の声が載っているが、現状の中で(次年度を含めて)載せて期待させていいのかな？ この冊子を見ての問い合わせや依頼に対応できるのかな？ ●8ページの項目 ⇒認知症であることを～ は誰に対しての発信か？「家族や会社、友人～」となっているから「本人への発信」だと思うが、増えてきている傾向にあるとは居え、本人一人で診断を受けに行くはまだ稀。上の項目でカバーできる内容でこの項目は必要ないのではないかな？ ●次もその次の項目も重複したくないようです。こう「無理に・・・」を重ねると迷いを払拭できないまま「知らせない」となりかねないのでは？ 本人にとって家族を含めた周囲が「認知症の診断を受けた自分」にとって信頼できる人達とは限らない。お仕着せに列挙するのではなく、「これからの人達」にとって考え(検討)しやすく、事例をもとにまとめた方が良くないかな？
<p>【活用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布場所 ・活用場面 ・本人を含めた支援者間の連携 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●「配布場所」 ⇒他の人に訊ねなくても自分で理解と納得できるいい内容になったら関係不特定場所で構わないが、聞かれて説明しなければならないなら、きちんと説明できる場所に限定すべき。 ●「活用場面」 ⇒認知症本人や「心配だ」という人が来られる場所で、交流・相談時に・・・ かかりつけ医を含めた認知症診断終了後に・・・ 現段階では介護予防を含めた様々な場所でやみくもに配布していいものではないように思う。 ●「本人を含めた～」 ⇒このケアパス作成に、「地域で暮らす」「仕事も続ける」ための対象が入っていない所に、専門職が希望と期待を込めた内容になっている。 連携は常に認知症と正面切って向き合っている人達だけでなく、中途半端(失礼?)に関わっている、民生委員・町内会・地区社協との連携をケアパスを基に深める事。 ネットヨタの社長をはじめ県内有力企業のトップ、みやぎ生協等の小売業との意識の共有を図ることも大事なのではないかな？ <p style="text-align: center;">「作ったよ」で終わらせないで欲しい！</p>

|